



### 教えて！カエル仙人！

わしは「カエル仙人」。わしの田んぼでは稲だけでなく、たくさんの生きものも育てておるぞ。その秘訣を伝授しよう。

ポイントをわかりやすくおしえてね！



# せら高原の ~生きものとともに育むおいしいお米~

# こだわり米 と 生きもの の 育て方

田んぼの水管理を工夫したり、ヒヨセやビオトープを整備すれば、生きもの生活の場は格段に良くなります。生きものとともに育ったお米は安心してしかもおいしい！そういうお米が目立っています。



## 冬 winter

## 春 spring

## 夏 summer

## 秋 autumn

12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月

こだわり米の育て方

病害虫対策

田んぼ

生きもの育て方

あぜ



●(農)安田まさくにでは土づくりとして全ての田んぼに堆肥を投入しています。 ●冬の田んぼの水溜まりはヤマアカガエルの産卵場所になります。 ●4月は苗づくりの季節。「苗半作」といわれ良い苗は良い実りをもたらします。 ●農業法人では8条植えなどの大型田植機で大きな田んぼを短く間に植えていきます。 ●小苗を植えても、つぎつぎに分けて葉が増えていきます。 ●稲穂の赤ちゃん=幼穂と葉色を調べて肥料の量と施肥時期を見極めます。 ●盆を過ぎると夜は涼しくなり、せら高原ならではの美味しいお米が実っていきます。 ●収穫が終わると次々にJA子ども達の稲刈り体験が催されます。 ●稲刈りが終わると次々にJAにお米が出荷されます。

<p><b>土づくり</b></p> <p>土づくりのために堆肥や土づくり肥料を冬の間に施します。 堆肥 2トン/10a 土づくり肥料 200kg/10a</p> <p><b>せら高原のこだわり米の栽培基準</b></p> <p>できるだけ農薬や化学肥料は減らしたいと思いますが、経営が成り立つ収穫量を確保するために、広島県での標準的な栽培方法の半分以下の範囲で農薬と化学肥料を使用しています。</p> <p>◎農薬：成分数で9成分以下(広島県の標準的な使用回数は21成分) ◎化学肥料：チッソ成分を10アールあたり4kg以下(広島県の標準的な使用量は8kg)</p>	<p><b>モミまき</b></p> <p><b>元肥</b></p> <p><b>代かき</b></p> <p>泥水が河川に流れないように注意します。</p> <p><b>田植え</b></p> <p>一株2~3本の小苗に植えます。</p> <p><b>苗作り</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>温湯消毒した無農薬の苗を育てます。</li> <li>種子は毎年更新します。</li> <li>うすまぎ(催芽籾160g以下)</li> </ul>	<p><b>田植 出穂85日前</b></p> <p><b>活着促進</b></p> <p>晴れた日は浅水で水温を高め根張りを進めましょう。</p> <p><b>除草剤</b></p> <p>施した後、水を切らさないことがポイント。</p> <p><b>殺虫殺菌剤</b></p> <p>いもち病・イネミズゾウムシ・イネドロオウムシ・ウンカ類の被害を防ぎます。</p>	<p><b>有効分けつ期 出穂45日前</b></p> <p><b>中干</b></p> <p>茎が18本以上になったらムダな茎(無効分けつ)をおさえ根に空気を送ります。</p> <p><b>穂肥</b></p> <p>出穂20日~18日前ごろ葉色を見て有機肥料を配合した専用肥料を適量施します。</p> <p><b>いもち病</b></p> <p>穂の付け根がいもち病にかかると穂が実りません。肥料をやりすぎるとかかりやすくなります。</p> <p><b>特別栽培米のポイントです</b></p>	<p><b>幼穂形成期 出穂25日前</b></p> <p><b>殺虫殺菌剤</b></p> <p>いもち病・ウンカ類・カメムシ類の被害を抑えます。</p> <p><b>あぜ草刈</b></p> <p>出穂2週間前までのあぜ草刈はカメムシの防除に有効です。</p>	<p><b>出穂期</b></p> <p><b>稲刈</b></p> <p>ワシはトビイロウンカ。秋に増えるから秋ウンカとも呼ばれておる。稲を枯らす害虫として厄介者扱いされているけど、稲を枯らすほど増えるのは数年に一度あるかないかなんだがね。</p> <p>オイラはアカスジカスミガメ。エサはイネ科の実だから人間からは「害虫・カメムシ」と呼ばれているな。でも、実ができないようなタイミングであぜ草刈りがしてると寄りつかないよ。</p>
--	---	--	---	--	---

**田んぼ**

2月の暖かい雨が降る夜、ヤマアカガエルたちは冬眠から目覚め、産卵を始めるんじやよ

**カエル お目覚め順位**

- アカガエル
- シュレーゲルアオガエル
- トノサマガエル
- ダルマガエル

**生態の特徴**

- 一生を田んぼで過ごす
- 産卵が遅いため、中干しとオタマジャクシの時期が重なる

**保護のために必要なこと**

- 中干し時期でも水を切らさない
- 中干しの遅い品種や作型を選ぶ

**田んぼの足跡**

- ヤマアカガエル (2~6月)
- シュレーゲルアオガエル (4~6月)
- トノサマガエル (4~10月)
- ツチガエル (4~10月)
- ヌマガエル (4~10月)
- ヘイケボタル (6月)

**保全ポイント!**

- ヒヨセには水を残そう! 足跡にあるわずかな水も大切な避け場です。
- トノサマガエルの産卵は5月上旬からで変態(カエルになること)は6月下旬から7月です。
- 早く水がこないとかな~

**水田**

ナツアカネは稲穂の上から、アキアカネは稲刈りの後の水たまりに産卵するんじや

**冬の間のお手入れ**

- ヒヨセに水を切らさない
- 休耕田に水を張って管理する
- ヒヨセを修復する

**あぜ**

あぜは草花や、害虫を食べしてくれるカエルやクモなどの貴重な生息場所です。上手に草刈りをすれば、かわいい花や蜜を吸う蝶の姿を楽しめます。

**冬の水のあるところ**

ゲンゴロウ、タイコウチ、ドジョウ、ツチガエルのオタマジャクシなど

**越冬します**

ツチガエルのオタマジャクシなど

**あぜ草花**

- シロハナタンポポ (4月)
- ムラサキサギゴケ (4~5月)
- オヘビイチゴ (4~5月)
- スミレ (4~5月)
- ハハコグサ (4~6月)
- ヒョウモンモドキ (6月)
- ノアザミ (5~9月)
- ミソハギ (7~8月)
- オミナエシ (8~9月)
- オミナエシ・ミソハギなどは盆花として利用されています。
- キキョウ (8~9月)
- 種が出る2週間前のあぜ草刈りはヒガンバナを増やす効果もあります。
- ワレモコウ (8~9月)
- ヒガンバナ (9月)
- リンドウ (11月)